

会議の名称	第31期第7回社会教育委員会会議
開催日時	平成22年7月30日(金) 14時00分から 16時00分まで
開催場所	教育委員会室
出席者	西邨定実議長、植松千代美副議長、青野明子委員 石塚美穂委員、岩谷誠委員、上田卓是委員、小川温子委員 高木統禧委員、谷間倫子委員、藤井泰雄委員 [事務局] 社会教育部／岸部長、中田次長 中央図書館／大本館長、竹本課長 社会教育青少年課／武田課長、岡田課長代理、川口係長 北田主任 文化財課／鈴江課長 スポーツ振興課／藤丸主幹
欠席者	荒田英道委員、稲田義治委員
案件名	・平成22年度の職員体制について ・枚方公園青少年センター条例等の一部改正について（報告） ・平成22年度の審議案件について
提出された資料等の名称	【資料】 ・第31期社会教育委員委嘱者名簿・事務局名簿 ・枚方公園青少年センター条例・施行規則等 ・家庭教育をめぐる主な動き（文部科学省パンフレットより抜粋） ・社会教育法新旧対照表（平成20年） ・社会教育法の一部を改正する法律について（通知）平成13年 ・枚方市の家庭教育推進事業について
決定事項	家庭教育の推進について様々な方面から話をして、方向性を見つけていく。
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開
会議録等の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表
傍聴者の数	0人
所管部署（事務局）	社会教育部社会教育青少年課

審 議 内 容

西邨議長 ただいまから第31期第7回枚方市社会教育委員会議を開催します。

委員の皆様におかれましては、公私ご多忙の中、ご出席いただきましてありがとうございます。

開会に先立ちまして、事務局からご挨拶をいただきたいと思います。

〈事務局〉 本日はお忙しい中、また非常に蒸し暑い中を、社会教育委員会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

昨年の9月に青少年センターのあり方について諮問させていただき、半年という非常に短い期間に6回の会議をかさねていただき、ご答申いただきました。誠にありがとうございます。その答申にそって、6月議会におきまして平成22年度の枠組み、開所時間と開所日の変更、青少年団体の優先利用、一般団体の有料化等々の制度的な条例改正と、ピアノの椅子の買い換え等の備品、あるいは修繕料の補正予算ということで議決いただきました。皆様方からいただきましたご答申の骨組みは、そのまま反映させていただくことができ、12月から施行という形になっております。

青少年活動の活性化について、今後事務局の方で青少年センターが若者のたまり場となって、そこで若い方々が何かを発信していくような施設になるよう、充実に努めてまいりたいと考えております。今後ともご指導よろしくお願い申し上げます。

西邨議長 ありがとうございます。

では、事務局の方から、本日の委員の出席状況報告をお願いいたします。

〈事務局〉 本日の委員の出席状況ですが、荒田委員、稲田委員は所用のため欠席ですので、委員12人中、10人の出席となります。枚方市社会教育委員会議運営要綱第5条により過半数の出席がありますので、会議が成立していることをご報告いたします。

西邨議長 それでは本日の資料の確認と4月に定期の人事異動があり、事務局の方にも異動があったと聞いておりますので、その説明も合わせてお願いいたします。

(資料の確認並びに、平成22年度の職員体制について事務局から報告)

西邨議長 では、枚方市立枚方公園青少年センター条例等の一部改正について、事務局から報告をいただきたいと思います。

(枚方公園青少年センター条例・施行規則等について、事務局から報告)

西邨議長 ただ今、事務局の方から枚方公園青少年センターの条例・施行規則等の一部改正についてご報告いただきましたが、ご質問等ございましたら、お受けしたいと思います。

冒頭にご挨拶いただきましたように、われわれの協議した内容がほとんど通っています。

逆に議会の中で、話題になったことはありますか。

〈事務局〉 議会の中では、基本的にほとんどの各派は賛成でしたが、そもそも公民館を生涯学習市民センターに再編したことについて反対はございました。有料化自体に反対という意見と、また青少年の年齢についてです。国の施策では青少年の定義を30歳までと位置づけているので、なぜ22歳なのか、なぜ30歳にしないのかという議論がありました。直近の法律の子ども・若者育成支援推進法では39歳までということなので、40歳未満までがいわゆる青少年というくくりに入ってきています。今回は施設の使用料をご負担いただく年齢ということを中心に考え、22歳が一つの妥当な線ではないかと答申いただいているので、それにそっておおむねご了承いただいたということでございます。

西邨議長 年齢については、考え方が色々ありますので、どこかで積み上げしないといけないと思うところで仕方がないかなと思います。

次に、平成22年度の審議案件について事務局の方から何かご提案がありましたら、説明をお願いします。

〈事務局〉 社会教育委員会議につきましても、通常教育委員会より社会教育行政について諮問し、答申を受けるという形でご審議いただくことになっております。この第31期社会教育委員会議におきましては、昨年8月に委員の委嘱をさせていただきまして、9月10日の第1回会議におきまして、枚方公園青少年センターの見直しについて諮問させていただき、6回の会議とパブリック・コメントの実施など、本当に精力的にご審議いただき、答申をいただいております。委員の皆様におかれましては、実質的に任期2年分の活動をしていただいたものと感謝しております。本当にあ

小川委員 最終的には家庭なのだなということを実感しています。特に今、キレたり、荒れたりする子どもたちの中で、じっくり話を聞いていくと、学校にも問題があったり、学校の指導の仕方や他人との関わり、友だちとの関わりがうまくいかない子どもたちもたくさんいます。しかし、やはり家庭で可愛がられていない、愛を受けていない、「ぼくは、わたしは愛されているのだろうか」という不安のもとに学校に来ていると感じています。これは親だけの問題ではなく、世の中の、社会の情勢の不安が子どもたちにも影響していると思っています。

一昨日、江川紹子さんのお話を、京都市教育委員会主催の研修会で聞いてきました。江川さんは「以前オウム真理教事件でおきた出来事は別世界のものだったはずが、今は普通の世の中に出てきてませんか。」というように問いかけられました。それはこの間のマツダ自動車工場や秋葉原での無差別殺人事件であったり、そういうことが現実の世界で次々に起こってきていると言われていました。ドキッとしたのは、「今の子どもは自尊感情が低い、自分で解決する能力がない。」という耳の痛いお話でした。

私はいつも先生方に「家庭の闇」と言っています。これは担任や学校では見えないもののことです。子どもはやはり色々なことを抱えながら学校へ来ています。以前と違って社会情勢もすごく変わってきているので、子どもたちに元気をあげられるように声をかけようと話をしています。かつて、ある方から、「こえは声ではない。音のするこえではなくて、肥料のこえ、肥と書くのだよ」と言われたことがあり、その事が忘れられません。声をかけることぐらいでも、「家庭の闇」を持ちながら来ている子どもが学校で元気よく過ごせるようにと思っています。子どもは、ちょっと声をかけると元気になって、「明日遅刻したらダメよ」と言ったら、「うん」と言ってちゃんと守ってくれる。まずはやはり学校から元気を与えられるようにしていかないと、せめて「家庭の闇」がたくさんある子についても、学校に来たら元気になれるようなそういう学校であればと考えています。

西邨議長 岩谷委員、いかがですか。

岩谷委員 小川先生が家庭教育について話してくれましたので、社会教育部としてはどういう働きかけを具体的にしているのか、逆に勉強したいなと思いました。先ほど議長が言われましたが、家庭教育に対して非常に素晴らしいことが書いてあるという話なのですね。

西邨議長 資料6は、平成20年度の家庭教育推進事業の一覧ですが、一番右側の会場欄を見ていただいたらおわかりと思うのですが、会場として生涯学習市民センターを多く使っているの、かなり広範囲というか遠方になってしまっている。将来的には、小学校区単位になるともっと近隣になるかと思えます。しかし、そういうシステムについては学校教育とこの家庭教育の推進とのマッチングが必要で、おそらくまだそういう方向には進んでいかないのではないか。そうしたことも含めて、具体的にこんなふうにしたらどうかとか、こういう方向で場所等もということもこの辺から見ていただいて、どんな細かいことでもいいので、議論していきたいなと思っています。

岩谷委員 参加人数を見ると、少ないという感じがするのです。10人とか13人という数字ですよ。それでもこうやって講座をやっていく意義はあると思うのですが、家庭教育をどうやって支援していったらいいのかというのは非常に難しい課題だと、学校側の立場から感じます。

西邨議長 谷間委員、いかがでしょうか。

谷間委員 家庭教育と言われるとすごく恥ずかしいのですが、よその子のことばかりやっているの、自分の子どもはそっちのけです。ただ、今ありがたいと思っているのは、今年赴任してきた娘の担任の先生が、一週間に一回、一人ずつに課題をつけて「心の糸」という題で、子どもに課題を与えて思いを書かせているんです。それに先生がコメントをしてくださっている。直接話すのではなくて、文章で話しているから他にも伝わるし、子どもにとっても自分は大事にされているのだなど、すごく伝わったので、そのようなやりとりのやり方も家庭でできるのではないかと思、参考にしていきたいと思っています。正直言って、子どもと接することが少ないのです。今日も、夜に別の会議があるので、朝のうちに家のことをして、子どもはお友だちやおばあちゃんの家で預けっぱなしにしています。全然会話ができていなくて、帰って来るともう寝ている。だから忙しいお母さんにも、作文や日記ではないけれど、そういうふうに文章で会話するのもいいかなと思っています。

西邨議長 高木委員、いかがですか。

高木委員 私は、物不足の時代に生まれ育ったことを感謝しています。私の親は行商をしておりましたので、会話などほとんどなかったの

すが、親の額の汗と背中が、「不良になるならなってみろ。」と声なき声が聞こえていました。

私はクラブ活動の女学生たちに、「結婚して子どもを産んだら、一日一回は必ず抱きしめてあげなさいよ。」と言っています。産むより育てるということがいかに難しいか、まだ彼女たちは実感はないでしょうけども。

自由にさせているとか、個性を自分で伸ばしてもらいたいみたいなきれいな事を大人はよくいいますが、それは、放置していることの言い訳に思えてならないのです。

資料6の「お父さんと一緒にトランポリンをしましょう。」という項をみますと、参加人数がかなり多いですね。スポーツを通じて、親子の交流をはかっていただくのも、一つの方法だと思います。

こうした市をはじめ、地域も含めたいろんな活動に保護者にもふるって参加していただき、わが子の成長ぶりをみて、理屈でなく子育ての素晴らしさを実感していただきたいですね。

西邨議長 青野委員、いかがですか。

青野委員 大学生に限らずだと思いますが、家庭環境が大変な人が多くて、両親が離婚した家庭や母子家庭など、経済的なことをかなり背負っているような学生が、珍しくなくなってきたと感じます。

大学生の親御さんなのですが、呼び出してもなかなか来てくたさいません。大学で保護者懇談会を努力してやっけて、希望があれば個人面談もやっけています。来てくださるところはまだいいのですが、来てほしいなと思う家庭は来てくださらないんです。大学生になってからだと、つながりが難しいと感じています。

私は臨床心理士という立場で、「親を考えるセミナー」を担当させていただいて、枚方市は教育熱心というイメージがあります。大学の授業ぐらいのボリュームの講義をさせてもらったのですが、参加されたお母さん方は一生懸命メモをとられて、積極的に質問もされてきました。人数は少なかったのですが、広報に力を入れれば、ニーズはもっとあるのではないかなという気はします。3月7日の講演は人数がすごく多いですね。これは広報、PTA、教育委員会が共催しているので、広報の威力が違うのかなと思ったりしています。セミナーをやらせてもらって感じたのは、事業を広げたいこうと思えば、地域のお母さん方のニーズに応えるということです。親御さんそのもののコミュニケーション能力と言いますか、どこの講演に行っても、病院に行けばモンスター・ペイシェント（患者）について、学校に行けばモンスター・ペアレントについてどう対処

したらいいのかと相談を受けるので、親御さんも苦しんでいるというか、人間関係が難しくて孤独化してしまうというのはあるのではないかと思います。「親学習講座」は一步進んでいる取り組みではないかと思っております。親御さんも巻き込んで、そしてそこを卒業した人が地域でそういう活動をやっていくというのはいいのではないかなと思います。

西邨議長 植松副議長いかがでしょうか。

植松副議長 皆さんの感じておられることは、どれも響いてくることばかりです。

最近テレビを見ていたときに引きこもりの定義が、39歳まで引き上げられたというのを聞きました。でも、39歳まで引きこもっていて、40歳から突然社会に参加できるようになれるとも思えないわけで、この年齢というのは定義の範囲の後追いでどんどん追いかけていくことになるのかなという不安を感じました。そのニュースを見ながら思ったのですが、発展途上国では引きこもっている人は、あまり見受けません。少なくとも生きることに精いっぱいのところでは、引きこもっていては生きていけないのだと思います。生きる力をつけてあげて、ある年齢になったら親離れ、子離れが互いにできるようになっていかないといけないと感じています。

親は子どものために良かれと思ってしたことが裏目に出ていることが多いのではないのかと複雑な心境になります。

最近本を読んでいてドキッとしたのですが、百獣の王ライオンは群れのリーダーとしてオスが君臨している。メスは一生懸命狩りや子育てをする。何もせず寝そべっているオスのリーダーの役割というのは、群れを渡り歩いているオスが来たときに、それを追い払って自分の群れのメスと子どもたちを守るということです。だからメスは強いオスのために餌を獲るし、オスの子どもを残したいから子育てをする。不幸にして、オスのリーダーが交替するような事態が生じるとどうなるかと言うと、若い子どもを育てていたメスが、自分の子どもを食い殺してしまうそうです。だけどそれは、結局自分がより強いオスの遺伝子を残したいという、ある意味本能が成せる技なのですけれど、それを見たときに、今、世の中で話題になっている虐待の話を思い出してしまいました。ある意味人間も、動物の側面が前面に出してしまうと、虐待のようなとても人のすることとは思えないような事件をおこしてしまうのだろうかと思います。やはり人は理性と知性があるという点で、普通の動物とは違うので、本能的なところをちゃんとコントロールできるように育たないといけないと強く感じました。

最後に、親子で参加してもらおうイベントはとても大事だと思っています。私たち夫婦は、地域の子ども会の方と一緒に、荒地だったところを親子参加で耕して、畑にして、さつまいもを作って、収穫して、焼きイモにして食べるという活動を今年で3年目になるのですがやっています。私たちは、子どもが主体の活動と考えていたつもりなのですが、むしろお父さん、お母さんのつながりが育っていて、お父さん方の親父会、お母さん方の嫁会というのがあります。例えば、嫁会でお母さんたちが集まるときは、お父さんたちが面倒を見てくれて、お母さんたちは息抜きをするという関係ができあがっています。そういうのを見ると、月一回か二回でも家族以外の人たちと、何かを一緒にやるということで、お互いにストレス解消になり、大変なのは自分の家だけではない、お隣の家も大変なのだということを共感でき、お母さんたちも救われるみたいです。私の勤務している植物園でも、親子向けの活動を増やしています。例えば、蟬の孵化を親子で見て感動して、「すごいね、頑張ったね」と親子で一緒に感動する、こういう機会があると少しずつ親子の会話の幅が広がっていき、普段は見えないお父さんのすごい面が見えたりして、息詰まりを打開してくれるのではないかなと思っています。

西邨議長

順番にいろんな立場で、家庭教育について思いをお話していただいておりますが、石塚委員はいかがですか。

石塚委員

日常的に虐待の事件、記事が目飛び込んできまして、胸が痛い思いをしています。

枚方市ではいろんな地域で、様々な講座が多く開催されており、子育てサークルもたくさんあり、すごく恵まれているように思います。以前、社会教育課の事業で「父と子の仕掛け絵本講座」というのを2回にわたってやらせていただいたことがありました。10人前後の参加であり多くはなかったのですが、すごく楽しい講座で、父と子がふれあういい機会になったと思っています。

私は、YMCAの未就園児のクラスを、親子教室も加えて、20年ほど関わらせていただいて、今年はまだ実現していませんが、親子で、飯盒炊爨に行く機会が年に何回かあります。その中で思うのが、お父さんは何をしたいかわからないんですね。お母さんは友達関係があるので、会話も弾むのですが、お父さんはどこに座っていいのかわからずしていたりするんです。そのときに「火を熾してください。」「薪を割ってください。」とちょっとしたお仕事をお願いすると、意気揚々として、すごく生き生きされてくるのです。それを見て子どもたちは「お父さんはすごいな」ということになり、一緒に食べるご飯もなおのこと美味しく感じられるみたいで

す。いい思い出になり、後からの話題作りにもなって、親子の会話が弾むということもあります。

最近、若いお母さんたちと話をしていると、「子どもが言うことを聞かずどうしていいかわからない。」「オムツがなかなか取れない。」「ご飯を上手に食べられない。」「パニックになって手が出てしまい、後から考えたら、何てことをしたのかと思う。」と泣き出すお母さんもいたりです。核家族化で、お父さんも忙しくて誰にも話ができず、煮詰まってしまうと思うのですが、「大丈夫よ。」と一言かけるだけでホッとされて帰られます。枚方市には子育て支援の場が色々ありますが、なかなかそういう場に行けない、一歩踏み出せないという方もいらっしゃると思うので、そこを支援できれば、随分救われるのではないかなと思っています。

先日、芦屋の教育ベビーシッターを派遣している会社の研修に行かせていただきました。芦屋の土地柄か、ピアノ、英語を教えられるベビーシッターなど色々とニーズがあるらしいのです。その中で新しい事業としまして、大学の中に保育室を作れないかということ、今検討されているらしいです。実は、早稲田大学の方ではそういう試みがあり、職員の子どもを預かるのはもちろんのこと、地域にも開放して、地域の子どもも預かるような取り組みをされているようです。それを関西にも持ってこれないかということで、今大学をあたっているということです。今後、大学も各地域の子育て支援の場所になるのではないかと思います。

また、食育はすごく大事だと思います。一緒にご飯を食べるだけでも信頼関係が築けます。食育という部分は、もっともっとクローズアップされていいのではないかと思います。

植松副議長

参考になるかわかりませんが、大学では随分前に、各大学が保育園をつくる取り組みをしていました。今から40年ほど前かと思いますが、「ポストの数ほど保育所を」という取り組みの中で、大学で働く女性が増えた時期に、国公立大学を中心に保育所をつくった時期があったのです。ただ、一時期すごく下火になったのですが、ごく最近また地域の人を受け入れるという形で、取り組みが始まっているのかと思います。関西では、京都大学にすでにありますし、大阪市立大学もごく最近ですが出来て、実際にキャンパスに行く、一角で保育所が賑やかにやっています。

石塚委員

学生さんたちが、小さな子どもと触れ合える機会があるだけでも随分違うと思いますし、今後私学でも広がればいいなと思っています。

西邨議長

そういうのがあるんですね。上田委員はいかがですか。

上田委員

私は、NPO 法人に所属してはいますが、この中では一番年上に近いと自認しておるのですが、私たちが育った時代から今までを考えますと、子どもを育てる部分が非常に狭められていると思うのです。我々が育った時代というのは、同級生は横のつながり、上級生、下級生はみんなだんごになって遊びまくっていたわけです。今は遊ぶ時間が非常に限られて、勉強に行く、練習に行く、そういう閉ざされた社会で生きているわけです。勉強の上での切磋琢磨はあるかもしれませんが。ただし人間、生物として生きる切磋琢磨の時間が非常に少ないように思うのです。社会的な変化によって、どうしても避けられない部分は多いと思いますが、例えば我々が子どものときは生傷が絶えなかったです。走り回って喧嘩をして、決して勧められることではないかもしれませんが、痛い目にあって、それで物事の手加減というのを覚えました。

ある日突然大人になって、洗濯機の中に子どもを放り込むなんてことは、恐らくできないと思うのです。どの程度やると、人間はこうなるというのをわからず大人になってしまった人たちが非常に多いと思います。

畑での農園作業に私も少し関わっているのですが、親子三世代でやっておられる菜園で、そこに参加する子どもというのはたくましくなるんですね。しかしそこに通っている子どもさんが、だんだん少なくなっているのです。教育熱心と言いますか、塾やサッカークラブの方がいいということがあり、減っていくのが残念だなと思っています。

それから今、高齢社会ですので、高齢者に協力してもらうのも一つの手立てではないかと思うのです。私は「子どもの安全見守り隊」をやっているのですが、そこで小学生と毎日会って挨拶していると、初めのうちは子どもも若干敬遠していますが、挨拶を交わすうちに親しくなりました、今では子どもはどんどん反応してくれます。私の近所でも挨拶運動をやっているのですが、我々年代の者が小さいお子さんに声をかけると、向こうも返してくれる、心を開いてくれます。このように、我々の世代、相対的に数が多くなっている世代を活用するということが必要ではないかと思っています。

西邨議長

最後になりましたが、藤井委員はいかがですか。

藤井委員

ご承知のように、近辺で子どもの背中に火をつけるという話がありました。その話し合いが昨日ありましたが、妹さんの方がよりずっと厳しい虐待を受けていたようです。

家庭教育ということを考えるときに、実際どこから手をつけたらいいのか、皆さん方の話を聞いていたら納得はできるのですが、家庭さえしっかりしていれば何とかなのではないかと思ってしまう。ところが家庭にはそれだけの力がないし、逆に家庭にそれを求めすぎるからこそ余計に負担になって、一番弱い子どもにしわ寄せがいつているのではないかということを考えれば、その部分を社会で引き受けられる力を持たなければいけないのかと思います。

先ほど引きこもりの話がありましたが、内閣府の調査なのですが、30代が一番主流になっていて、だんだん引きこもりの問題が大きくなってきています。大阪府では今年度の実態調査をさせていただくことになりましたので、またご協力をお願いしたいと思います。

小さいときに、虐待を受けていると、大人と子どもとの力関係の中で、徐々に子どもが力を持ってくると、非行に走ったり、家庭内で親御さんに対して暴力を振るうというように力関係が逆転するのです。子どもが非行だということで、子どもが処罰を受けるといふ、つらいサイクルになるのです。皆さんがおっしゃっているように、保育所の時代にじっくり社会的に対応してあげることです。高木先生がいいことをおっしゃっていますね。「スポーツなどを通じて親子を引き出す。」ということです。男の立場で言うと、私も経験がありますが、何かセッティングされないと絶対に出ないということです。どさくさまぎれに連れてこられて、お父さん同士が仲良くなるとか、近所で仲良くなるとか、やはり地域社会でやっていくのが一番いいのかなと先生方のお話を聞きながら感じました。

西邨議長

皆さん方の立場で、家庭教育という思いを話していただきました。冒頭、申しましたように、先生方もおっしゃっているように、取り組みは難しいです。幅は広いですし、思いはいろいろあると思います。

谷間委員がいろんな役をされていて、お子さんを全く構ってやれていないし、教育していないとおっしゃったのですが、私はそうではないと思います。高木先生がおっしゃったように、お子さんは親御さんの行動を見ています。だから実際に会話や行動で教育するのは、もちろん一つの方法だと思いますが、私が感じているのは、子どもは親の背中を見て育つということです。親御さんの行動を一から十までお子さんに話さなくても、十分効果はあると思います。

我が家では、小学校5年生になると月一回炊事当番が回ってきます。自分で献立を考えて、自分で買い物に行くというのが我が家のルールです。娘二人がいまして、4週に一回私にも炊事当番が回ってきます。好き嫌いは言っはいけない、作ったものについては必

ず食べる、もう少しここをこうしたら美味しくなるのではないかと
いうアドバイスはOK というルールでやりました。

植松副議長 以前、西邨さんからお聞きした、子どもがどんなに時間がかかっ
ても、絶対に手も口も出さないで親はじっと待っていたという話に
感銘を受けました。

西邨議長 小学校5年生に作れと言っても、ろくなものは作れませんよね。
娘二人ともうどん定食からでした。時間がかかるから、手を出した
くなりますが、早く食べたいと思っても、横から口を出してはいけ
ません。

家庭教育は幅が広いですし、色んな考えをお持ちだと思います。
色んなことを議論して、具体的な取り組みなども挙げていきたいと
思います。我々の任期はあと一年で終わりますが、こういうことを
議論してほしいということを、次期に引き継いでもと思っています。
なかなか難しい広い分野ですので、色んな方面から色んな話を
して、少しでも方向性を示すことができればと思っています。

事務局の方としてはよろしいですか。

〈事務局〉 よろしくお願ひします。

西邨議長 その他、いかがでしょうか。

岩谷委員 虐待は最近増えてきたのですか。

〈事務局〉 文献での記憶ですけれど、昔は虐待とはならず児童労働になっ
ていたと思います。子どもが子守りをするなど、親から強制的に労
働させられていました。イギリスでも、炭鉱に入っていくのは子ど
もであったという時代がありました。それが要らなくなったから虐
待になったと言えるのかもしれませんが。

藤井委員 日本では、昭和8年に虐待防止法ができて、今の児童福祉法の中
でも、所謂見世物にするとか、そういう書き方がされています。

高木委員 孤児を買い取ってということでしょうね。虐待は以前からあった
のですね。

藤井委員 虐待の話で言いますと、1990年に初めて日本で虐待の調査を
したのですが、全国で1101件という数だったと思います。あれ
から20年経っています。4万件を超え、ずっと増えています。実

態的には概ね半数が就学前、小学校に行くまでの子どもさん、虐待している方の半数が実のお母さんなのです。今の日本社会の中で母親に子育ての負担がかかっている、現実的にはなかなか子育てをしにくい社会状況にあるだろうし、就職もできない、お金もない、経済的な問題は関係ないと言われながらもやはり経済的な問題は大きいです。親だけの責任という形の中で、虐待の問題を取り上げるのは好ましくないだろうと思います。

食べ物の問題も飽食の時代では全くないですよ。夏休みになると学校がないので、我々は困るのです。子ども本人の確認ができないということと、給食がないからです。「何も食べずに朝から来ています。」と報告を受けるのですが、何かを作るということではなくて、あるものを食べる、例えば買ってきたものをそのまま食べるということですから、何かを作ったという経験はないのです。家に自分のお箸がないのです。コンビニで買えば全部付いていますから。

高木委員　　子どもが産まれたときから家庭で教育しないといけません。自分を知って生活するというのも家庭教育で、努力するというのも練習するということと一緒に、練習は結果を裏切らないと教えていくべきではなかろうかと思います。やはり原点は家庭だと思います。社会に甘えてはいけないというわけです。

西邨議長　　今日皆さん方に色々な話を聞いて、少しでも何かお役に立てるような方向に進める案というのをこれから3回の中にでもまとめていきたいなと思います。できるだけ皆さんと色々な話をし、少しでもそんな問題がなくなる方向で議論できるようにしたいと思いますので、最後までよろしくお願ひしたいと思います。

〈事務局〉　　社会教育の立場から家庭教育の推進ということで、解決に向かうこともあるかもしれませんが。福祉部の方に家庭児童相談所と虐待に対応する窓口・セクションもありますけれど、この場では教育の観点からできることも含めて、ご意見をいただけたらと思っています。

西邨議長　　時間になりましたので、本日についてはこれで終わらせていただきたいと思います。次回の日程ですが、事務局の方、いかがですか。

〈事務局〉　　11月10日（水）でお願いしたいと考えております。

西邨議長　　事務局の方から提案がございました。では11月10日（水）ということで、次回を予定したいと思いますので、よろしくお願ひし

ます。

では、本日の社会教育委員会議を以上で終わりたいと思います。
ありがとうございました。